

令和4年度 第1回 城陽市立東部デイサービスセンター運営推進会議

出席者(委員) : 利用者家族 1名
地域住民の代表 3名
行政機関等職員 2名
担当職員 : 管理者兼生活相談員 1名
生活相談員兼介護職員 1名
意見徴収期間 : 令和4年9月15日～10月3日

新型コロナウイルスの感染予防に関する令和4年度第1回運営推進会議の開催について
城陽市高齢介護課に確認をすると当面、令和2年2月26日付けで城陽市高齢介護課より運営推進会議の対応についての通知と同様の取り扱いでよいと返答あり。

令和2年2月26日付城陽市高齢介護課より事務連絡として「新型コロナウイルス感染予防に関する運営推進会議の取り扱いについて」の通知あり。以下通知内容抜粋。

①運営推進会議について、新型コロナウイルス感染予防の観点から事業所判断により延期または中止としていただいて差し支えありません。なお、延期または中止とした場合は、当課宛にご一報願います。

②運営推進会議を延期または中止とする場合は、本来の運営推進会議を延期または中止とする場合は、本来の運営推進会議開催日時に合わせて、運営推進会議の委員宛に会議資料を郵送、FAX、電子メール等で送付していただき、情報公開や意見聴取に努めてください。

委員の皆様には令和4年9月12日に電話連絡にて書面での実施となる旨を伝える。その後9月15日付に委員の皆様へ郵送にて以下の会議資料(資料1:令和3年度事業報告/資料2:令和4年度事業計画/資料3:事業所の活動報告、事故及びヒヤリハット事故及び改善状況の報告)を送付。書面を通じて意見徴収を行う。結果は以下のとおり。

意見聴取の結果

1. 事業所の活動状況報告

・事業所概要について

委員:地域でも入院・入所される方が多く、自治会も退会される方が多くなっています。
事業所運営に色々な目線により努力されていると思います。

事務局:地域全体がそのような傾向があるように、当センターでは認知症の進行による入院や入所、また小規模多機能型居宅介護への移行が特に多い傾向です。

委員:20年にわたり安心安全に利用できるサービスの提供に寄与されてきたことに敬意を表します。
そろそろ施設・備品等に不具合が出始める頃かと推察いたします。
より安全に施設利用していただけるよう点検等充実されることを望みます。

事務局:設備点検および日常点検については、点検表に基づき確認をさせていただいております。
必要に応じて城陽市や関係各位に報告させていただいております。また送迎時に使用する車両についても、適宜入れ替えを行っております。電化製品や備品関係においても経年劣化してきている物については、早急に購入をしております。安心安全にご利用いただけるように、今後も環境整備に努めて参ります。

・介護保険事業の運営及び活動状況について(基本方針について、ご利用者の状況について)

委員：同上

委員：長引くコロナの中、職員の皆様のご努力で目標稼働率に近い利用がされていることに満足しております。

事務局：ありがとうございます。今後も引き続き感染予防対策を講じサービスの提供を行って参ります。

・新型コロナウイルスに対する取り組み・影響について

委員：十分に考慮されていると思います。

委員：徹底した対策で、クラスター発生を防止されていることに感謝しています。

委員：今の現状の中で御苦勞をお掛けされていると思います。頭が下がります。

事務局：労いのお言葉をいただきありがとうございます。

コロナ禍の中で、第7波は特に自宅療養や感染予防の為の利用自粛をされるご利用者が多い傾向がありました。職員も含めて感染者が発生し、改めて危機感を持つことができました。今後の対応等を含めて、訓練や研修を実施し職員の力量向上を目指し取り組んで参ります。

・行事等実施状況について

(主な実施行事、認知症対応型専用広報誌かけはし発行、職員に対する研修等実施状況について)

委員：運営推進会議について、ZOOMによるWEB会議を検討してはいかがでしょうか。

事務局：ご提案ありがとうございます。城陽市高齢介護課にも問い合わせをさせていただいたところ、オンラインで実施されている地域密着型サービス事業所もあるようです。ウィズコロナ、アフターコロナの観点よりハイブリット開催も含めて、オンラインによる運営推進会議の開催の実現に向けて準備を進めて参ります。

委員：利用者の皆様が持てる力を発揮できる行事を考案され、コロナ対策と併せご苦勞されている様子が伺えます。毎月の広報誌で皆様の様子、家族の悩み、一般的な介護知識といろいろ学ばせていただいております。ご家族への情報提供、また職員の研修にと積極的にインターネットを活用されていることは素晴らしいです。

事務局：コロナ禍以前までは、ご家族同士や職員との情報共有の為に、家族交流会を実施しておりましたが、運営推進会議と同様に、オンラインツールを活用した交流会を予定しております。広報誌かけはしの発行開始から約1年半が経ち、ご家族の皆様のご協力のもと発行させていただいております。職員が様々な視点で記事を考案することで、認知症の知識やケアについて振り返る好機となっております。現在の時代に即した、動画配信やオンライン研修を積極的に取り入れて参ります。

委員：大変と思います。宜しく願いますのみです。

事務局：ありがとうございます。今後とも宜しく願います。

・地域連携事業について(地域との交流、介護体験実習等の受け入れ)

委員：押花しおり私もコミセンで頂き活用しております。裏面のハンコがあじけなく、できれば「東部デイサービスセンターを利用されている皆さんが、施設で育てた花を押花にしたものです」の様なPRを記してはどうでしょうか。

介護体験実習等の受け入れができないのは非常に残念ですが、コロナ感染予防の点では慎重な検討が必要と考えます。

事務員：しおりを手に取っていただけて嬉しいです。しおり作りについて「お花の世話をする方」「押し花をする方」「お花のレイアウトをする方」「ハンコを押す方」など難易度に関わらず、お一人おひとりに役割を持って取り組めるように工夫しています。ご意見をいただきましたように、次回のしおりは、事業所のアピールできるような物となるようにしたいと思います。介護等体験実習については、3年程の期間があきましたが令和4年10月下旬より受入が再開予定です。その際も、事前の体調確認やPCR検査の実施等を経て、受け入れる事としております。

・その他について(防災関係、社会福祉法人による利用者負担減免事業の実施)

委員：災害時利用者の皆様がパニックにならないよう、あらゆる事態を想定して訓練を実施していただきたいです。また、地域の方の参加は介護者、自治体、社会福祉協議会等の協力を得て積極的に取り入れれば介護施設の存在を知っていただくよい機会にも繋がると思います。利用者負担減免事業については、制度のPRを機会有るごとにさせていただくことが大事かと考えます。第三者評価受診結果を簡単に報告していただければ、異なった視点から事業者を知ることが出来ると思うので、次回にお願いします。

事務局：今回の第三者評価受診結果については、様々な視点で評価をしていただいた中、2点助言をいただく事ができました。1点目は、委員が助言いただいたように、非常災害時の地域との連携が必要となる中で「自施設の災害発生時の対応マニュアルに地域の方々の協力を明文化されてはいかがでしょうか。」ということ。2点目については、「職員ひとりひとりに組織の理念を浸透させる取り組みをしてはどうか。」という点でした。現在、改善に向けて取り組んでいるところです。また詳しい内容については「京都介護サービス・福祉サービス第三者評価」のホームページ(URL:<https://kyoto-hyoka.jp/>)に掲載されておりますのでご参照いただければと思います。

事故及びヒヤリハット事故及び改善状況の報告

事務局：ご意見はありませんでした。

事務局：委員の皆様より貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上